

愛媛大学
文理学部理学科
理 学 部

同窓会報



▲理学部

愛大朋友会館全景▶

▼同上ロビー



通巻14号
第2号

《目 次》

愛媛大学文理学部・法文学部・理学部

同窓会創立30周年記念祭報告	2
教室便り	4
愛媛大学朋友会館	6
会館設立寄附者一覧	7
昭和58・59年度卒業生・修了者名簿	9
その他	12

愛媛大学文理学部・法文学部・理学部同窓会創立30周年記念祭報告

〔前夜祭〕

昭和58年8月6日 於 旧文理学部講堂

司会 中塚 公夫（物32年卒）

会長挨拶

理学同窓会長 高野 静（数28年卒）

法文学部同窓会長 前田 繁一（法30年卒）

旧教官祝辞 大野 盛直 先生

恩師の沢田允明、瀬川富士、井上健三、村上節太郎、各先生の参加を得て、理系33名、人文・法文系64名で前夜祭を盛大に行いました。

〔記念式およびパーティ〕

昭和58年8月7日 於 南海放送本町会館

司会 西田 博（経30年卒）

会長挨拶

法文学部同窓会長 前田 繁一（法30年卒）

理学同窓会長 高野 静（数28年卒）

祝 辞

愛媛大学長 坂上 英 先生

法文学部長 城戸 正彦 先生

理学部長 仙波 敬 先生

旧教官 大植 登志夫 先生

旧教官 大野 盛直 先生

感謝状授与 学歌斉唱

旧教官16名、学長はじめ現教官等（法文学部、理学部、教養部）22名の列席を得て、理系44名、人文・法文系89名で記念式および記念パーティーを盛大に行いました。記念式での挨拶・祝辞（関係員のみ）を集録しました。



会長挨拶

理学同窓会会長

高野 静

（文理・数・S28年卒）

本日ここに、愛媛大学文理学部、法文学部、理学部合同の同窓会創立30周年記念祭式典が行われるに当たって、御多忙中にもかかわらず、学長坂上先生、法文学部長城戸先生、理学部長仙波先生を始めとして、多数の恩師の先生方の御来賓をたまわり、ここに盛大な記念式を挙行いたしますことは、誠に本同窓会の光栄とする所でございます。理学同窓会を代表いたしまして、御臨席の皆様へ心から御礼を申し上げます。御出席いただいた同窓生の皆様。本日はおめでとうございます。多数の方の御出席をいただいたことを有り難く存じております。

昭和28年3月に文理学部第一期生、人文学科64名、理学科21名、計85名の方が卒業してから早くも満30年が経過いたしました。

顧みますれば、この30年間に母校はいろいろな面で前進発展をしてまいりました。懐かしい持田の地から城北の文京町へと校舎は移転いたしました。その間、学部の増設あるいは施設の拡充等、発足当時の文理、工、教育の三学部から、現在は、法文、理、教育、工、農、医と教養の六学部一部の四国第一の規模の大学へと拡充発展をして参りました。

文理学部が改組されましたのは昭和43年でございますが、法文学部と理学部にそれぞれ独立をし、更には専攻科、大学院と拡大をされ、愛媛大学の発展は、文理学部の発展と共にあったと言っても言い過ぎではないと思います。同窓会の方は多少遅れましたが、皆様御存知のように、昭和54年8月に文理学部同窓会が改組され、法文学部同窓会と理学同窓会に分離されました。そして、

それぞれにおいて活動をかさねて参りました。

卒業生の数も、旧文理学部を含めまして、法文系4000名を超え、そして理学系も2000名を超える大多数になっております。教育会をはじめ、経済会、その他、それぞれの立場で活躍をされておられることは、本同窓会といたしまして大変嬉しく存じております。

本日は何といたしても、元は一緒に法文学部理学部同窓会の合同の同窓会創立30周年記念祭ということで、御来賓の皆様の祝辞も承り、更に後のパーティにおきまして、この30年間を振り返り、更に将来を語りあい、楽しいひとときとしていただければ幸に存じます。

本会がより盛大に行われますよう、お願いいたしますと共に、両同窓会のますますの発展を祈念いたしまして挨拶いたします。



祝 辞

愛媛大学学長

坂上 英 先生

（元愛媛大学医学部眼科教授）

学長の坂上でございます。本日、愛媛大学文理学部・法文学部・理学部同窓会創立30周年記念式が盛大に行われることは、誠にめでたいことであり、ここからお祝いを申し上げます。

実は、私が愛媛大学に着任いたしましたのは昭和50年のことで、学長に就任いたしましたのはつい昨年（昭和57年）のことでございます。はなはだ申し訳なく存じますが、本学の歴史に暗く、特に創設期の様子にしましては、記録を読んだり、先輩の名誉教授の方々からお話を承り、存じておる程度に過ぎないのであります。しかしながら、昭和24年愛媛大学が三学部をもって創設され、爾来30年、今日六学部と一つの教養部を持ち、学生

数約 7000、教官約 750 を有し、四国第一の規模を誇る大学に発展しますまでには、随分多くの困難があったことだろうと推察いたしております。幸なことに歴代の学長始め、教職員各位の御盡力、並びに同窓会会員の方々の御協力の御蔭をもちまして、今日の立派な大学に育ったものと考えております。

昭和 28 年愛媛大学第一回卒業生が愛媛大学を巣立ちましてから 30 年、本年（昭和 58 年）3 月の第 31 回卒業生を数えますと約 6000 名（文理・法文・理）の方々が本学を巣立って世に出られたこととなりますが、これら卒業生各位が社会人として、それぞれの分野において立派に御活躍になっておられ、愛媛大学の評価を高らしめておられることは、誠に喜びに堪えない所であります。同窓会各位の今後益々の御活躍御発展をお祈りしております。

現在、愛媛大学は行財政改革というきびしい状況下に置かれておりますが、私共は精一杯努力して、愛媛大学の充実整備に努力いたしたいと考えておりますので、どうぞ同窓生各位におかれましても、よろしく御協力を賜りますようお願いしておきます。

同窓会の益々の御発展をお祈りして、簡単ではございますが、私の祝辞に変えさせていただきます。



ご挨拶

理学同窓会顧問

仙波 敬 先生

（理学部長・物理学科教授）

御紹介いただいた理学部の仙波でございます。この記念すべき式典に招待を頂きまして、非常に光栄に思っている次第でございます。今日は、文学部・法学部・理学部同窓会創立 30 周年記念おめでとうございます。この 30 年間に人文系・理学系合わせまして 6300 人の多数の卒業生を出された訳ですが、その卒業生の方々が、産業界、あるいは経済界、法曹界、教育界、その他の分野で非常に目覚ましい活躍をされていることをお聞きしまして、我々皆様方の母校に勤務している者としましては、非常に心強く、かつ頼もしく感じている次第でございます。我々皆様の母校に勤務している者としたしましては、やはり何といいましても、先生方の研究活動を活発にいたしまして、愛媛大学の社会的な評価を高めると共に、その研究の成果を実際に学生の教育に応用しまして、皆様方の後輩として恥ずかしくないような学生を育て、社会の第一線に送り込むということをモットーにして、微力ですが毎日励んでいる次第でございます。

次に、理学部の現状をお伝えしておきますと、御存知のように理学部は昭和 43 年 4 月に発足いたしました。その後、大学院の修士コースや中島臨海実験所を設置いたしました。更に、我々は理学部の充実を図るべく、幾つかの将来計画を持っています。例えば、博士課程を作るなどでございます。何様、学長さんも先程いわれました

ように、現在行政予算が厳しゅうございますので、遅々として進みませんが、我々といしましては、少しでもそれを実現すべく努力をしている次第でございます。どうか同窓卒業生の皆様方におかれましても、今まで以上に御支援、御鞭達をお願いする次第でございます。

又、この席を敢えてお借りしてお願いしたいことがございます。皆様方の中に、高等教育界で活躍されておられる方が沢山おられるようでございます。どうか、教え子を続々と母校に送り込んで欲しいと、敢えてお願いしたい訳でございます。

どうか皆様卒業生の方々は、今後共健康に留意されて、益々活躍されることをお祈りして、祝辞に代えさせていただきます。



理系旧教官代表

理系旧教官代表

大植 登志夫 先生

（元文学部長）

おめでたい席にお招きあずかりましてまことに有り難うございます。

私は旧松山高等学校に勤めておりました関係上、愛媛大学の発足に当たりましては、主として文学部の創設に関与いたしました。その文学部創設の申請の為の書類は実に膨大なものでございまして、百数十頁に上ります。その原稿を作ったのは近藤は悟先生で、今日お見えになっていないので、誠に残念なのですが、物理学者として非常に綿密な頭で、その膨大な原稿を作られました。それを謄写板にかいて呉れたのは和田義一君でございました。この人も非常に綿密な人で、又、非常に几帳面な字で、よく分かる美しい申請書を作って呉れました。その和田君が先日亡くなられ、非常に名残惜しく存じております。

30 年、色んな変化が起こってくることでございますが、今後、ますます愛媛大学が発展するようにお祈り申し上げます。

一寸思い出しましたので、いらぬことですが…。当時文部省の大学課長は井内慶次郎という人でした。主として、その人が窓口で交渉に当たっていたのですが、ある時、「各府県にある大学の一つ一つに生物教室を設ける必要はないのではないか。愛媛大学から生物を省いたらどうか」といわれまして、びっくりしまして、私が生物なものですから、「そんなことはない。生物学というのは非常に大切なもので、幾らあってもいいんだ。」といって頑張りまして、生物学の設置を認めて貰いました。そんなことがついこの間のことのように思い出されます。

今日は、どうも有り難うございました。

教室だより

数学教室

卒業生の皆さんお元気ですか。それぞれの職場等でますますご活躍のことと存じます。

文理学部が改組されて理学部の数学科が発足してから早くも17年の歳月が流れました。その間の数学教室での最大の出来事は、前回(4年前)の会報で述べましたが、53年に大学院修士課程が発足したのにもない、54年の秋に理学部の敷地の南寄りに四階建の新館が建てられて、数学教室がそっくりそちらへ移転したことです。それから6年経って少し古びてはきましたが、外見内容ともその後は特に変わりはありません。ただ、今年になって西側に機器分析センターが建てられたので、道路からは大分見えにくくなりました。それと南隣の御幸中学が城東中学を吸収して(松山東中学と改称)生徒数が一挙に2倍半位になったため、その騒がしさには可成り悩まされております。

数学科の学生定員は35名でずっと同じですが、近い将来、臨時増募の形で少し増えることになるかも知れません。教官の方も4講座12名と人数は変わりませんが、この4年間に3人の移動がありましたのでお知らせ致します。3年前に応用数学の石原先生が九州工大に助教授として移られ、その後任に名古屋大学から北川高嗣先生が来られました。また今年の春には、応用数学の井原先生が高知大に教授として、解析学の大内先生が大分大に講師として移られ、井原先生の後任には京大から池田勉先生が来られました(大内先生の後任は選考中)。それから事務職員の荻山さんが今年2月に退職されて4月から日野ゆかりさんに代わりました。

さて、学生諸君の数に変わりはなく、毎年30名余り同窓会員が増えておりますが、共通一次以来、県外から入学して来る人が少なくなったのは少しさびしい気がします。それから大学院生の数が定員の半分もない状態が続くのもさびしいことです。しかし、就職状況は良好で、依然として教職につく人が過半数ですが、企業からの求人は、情報関係の産業の目覚ましい発展にともない年々増える一方という状況です。卒業生が全国各地に広がり、さらには外国へもでかけて活躍する人が増えているのは頼もしい限りです。

松山に来られる機会がありましたら、是非教室にもお立ち寄り下さい。皆さんの御健康と御発展をお祈り致します。(前田 記)

物理学教室

前回の同窓会報は昭和56年の発行でしたから、まず、それ以後の先生方の消息をお知らせします。野本尚敬先生が学長の任期満了を目前に、御病気のため死去されました。昭和56年11月20日のことでした。最後の1年間ばかりは御病気がちで、無理をして学長の要職を務めて

おられ、我々物理学教室一同の者も、次期学長選挙には御出馬なさらないようお願いしようなどと話していた矢先のことでした。この記事を書いておまして、改めて哀悼の念に駆られるものであります。

さて、越智正行先生は、昭和57年4月1日に定年退官されました。その折には、卒業生の皆様方から多大の退官記念募金をいただき、まことに有り難うございました。なお越智先生はますます御元気で、教養部非常勤講師として、その後もずっと教鞭をとっておられます。越智先生の後任として、大阪大学から井上直樹先生が着任(昭和57年1月から)されました。御専門は音波物性で、新しい分野の活気にあふれる雰囲気教室にもたらされました。

工作室の主のような存在で、学生や若い教職員の相談相手になったり、実験装置のうまいアイデアを出してもらったりしておりました佐伯巖さんも、昭和57年4月1日に退官されました。後任として奥村秀彦氏が、工作室の仕事を中心に、今や大所帯となった当教室の裏方として、若さと馬力で頑張っております。

古き良き時代のお人がらの御三名様に、半年ばかりの間に次々と先立たれ又は道をゆずられ、あとに残るのは戦後派以後の者ばかりとなりました。古い同窓生の方々には“代替り”の感を深くなさることと思います。恩師の棲む古巣というよりは、後輩どもが育っている新道場として、当教室を末長くお引立て下さいますよう、お願い致します。

目を現職の先生方の方に転じまして、最近のトピックを1つお知らせします。仙波敬先生は、伊藤先生(生物)御退官のあとをうけて、昭和57年4月から理学部長に就任されました。任期は2年間ですが、昭和59年4月から引続き学部長として忙しい日々を送っております。

さて皆様方にぜひとも御知らせしておきたいことがあります。それは物理卒業生の企業への就職状況の好調さです。この4、5年のことですが、物理卒業生に対する社会の需要は、年ごとに増大の度を増しておまして、まことに御同慶の至りであります。私ども教職員は、この時代の要求にこたえるべく、社会に役立つ人材の養成に務めたいと思っております。

末筆ですが皆様の御発展と御活躍を心よりお祈り致します。(松沢 記)

化学教室

卒業生の皆さんお元気ですか。化学教室も文理学部時代の旧持田校舎時代から35有余年を経過致し、1、2回の卒業の方々には白髪も混じる頃となりました。

前回の56年の教室便りから後の近況をお知らせ致します。根本先生が57年に民間の化学工業会社に転出され、同窓の田嶋君が58年に構造化学講座の助手に、教養部へ転出した高岡君の後任に小川君が59年4月より有機化学講座の助手に、宇野君が59年6月機器分析センターの助手にと着任し、若さを吹きこんでくれています。教室付は天野夫人・森田嬢と、かつての男性天国の化学教室も女性優位の風が吹いています。

前述の機器分析センターですが昭和59年度に設置され、その建物も理学部構内の入口に将来を暗示するかのように偉容を見せています。全学施設ですが、センター長は有機化学講座の鈴木教授です。同窓の堀内君が専任助教授として活躍されることと存じますので、大いに利用し、将来の発展を祈ってください。

在学生の諸君は全国でも珍しい口頭試験で「化学に熱意ある者」として認定されて入学した者達になりました。併設の大学院修士課程も化学教室はいつも定員オーバーの盛況です。

卒業生の方々も時々母校を訪れて、実社会での御活躍の様子等を聞かせて戴きたく存じております。生涯教育の一貫として強く育つためにも、同窓生諸君の厳しい御批判と御激励が欲しいものと思っております。

皆様の御健康と御発展を祈ります。(須賀 記)

生物学教室

伊藤先生は停年退官される57年3月末まで学部長をされていましたが、56年後半は野本学長の代わりに学内諸会議の議長役と、学長が亡くなられたあと、3ヶ月間、学長代行をされておりました。皆様お変わりございませんか。教養部の澤田先生(学生部長2期目)、発生学の石川両先生を除く、昭和ヒトケタの第2世代の先生方、村山先生の頭髪の生態を精査しますと、密度は若い頃と同じですが、ゴマシオ状がかなり進行中。越智先生は不変。水野先生は宮本先生と同じ頭にされました。大正なのに古川さんのは不変。今年は女子学生が半数以上になりました。臨海実習の部屋割りは女子をどの部屋にするか悩みでしたが、今度は男子をどの部屋に入れるか悩まねばなりません。俺は教育に行きたいともらしていたかつての男子学生の方々うらやましいでしょうね。

伊藤猛夫先生が、昭和57年3月に停年で退官されました。その時の退官記念講演会と記念パーティーには、大勢の卒業生諸兄姉がかけつけて下さり有り難うございました。

退官後は、特別のおつとめはもたれていませんが、環境保全や資源保護に関する多数の委員会でご活躍中であり、全国をとびまわっておられます。時々お宅におじゃまさせていただきますが、その時にはお庭に建てられた書庫兼実験室(ミニ・ラボと呼んでおられる)に通されます。机上にはいつも本や資料が所狭しと広げられています。ご出張の合間には、どうやら著述に没頭されておられるようです。髪に少し白いものがまじり始めたかなと思えるのですが、それ以外はご停年以前にも増してお元気そうです。

同じ年の4月に、生態学講座の助手に、大森浩二先生をお迎えしました。九州大学の天草臨海実験所で海産無脊椎動物とくにヨコエビ類の生態を研究しておられた方です。松山に來られてからも、重信川河口付近で研究を続行され、今夏には理学博士になられることがほぼ確定しています。また、同じ今夏には、当生物学科卒業の女性と新世帯をもたれる予定です。

58年12月から59年2月末まで、インドのバーハン

パー大学助教授バーマ氏が発生学研究のため来室。まったく日本語はダメ。外国生活初体験。運悪く、松山は数十年ぶりの寒波で積雪30センチが2度。氷点下の日が1週間以上つづくような異常気象のときでした。ご想像下さい。59年7月には京都大学教養部で非常勤講師をされていた小南哲也氏を教務職員(発生学講座には助手定員がないため)としてお迎えしました。京都大学ではヒトデ胚の形態形成に関して研究しておられました。59年10月に院生の河野剛志君がイタリア政府奨学生として1年間イタリアのナポリ臨海実験所に。今年も院生の出石公司君が文部省の学生国際交流派遣留学生として、カリフォルニア大学リバーサイド校に1年間留学する予定です。

最近、卒業生の皆さんからの年賀状や挨拶状や結婚しましたのハガキ等がめっきり少なくなりました。大切に保管して来室された方々にもお見せしますので、どしどし教室あてにお便り下さい。40円で結ぼう生物の輪。

(水野・野田 記)

地球科学教室

私達の教室も今年の春で5回の卒業生を送り出しました。あっという間に100名をこす卒業生が生まれたということです。在学生は120名を超えていることは確かですが、大学生生活を楽しんでいる方もおられ、学務係に聞いてみないと実数ははっきり分かりません。

教室の先生方のその後の状況を御紹介致しましょう。愛媛大学文理学部時代から活躍され、地球科学教室の設立に努力された宮久三千年先生が昭和58年2月に薬石効なくお亡くなりになりました。また、都築芳郎先生は今年の3月定年退学され、現在名古屋市にお住まいで、名城大学に元気で勤務をしておられます。それに、鳥海先生が7月より東京大学の助教授として移られました。4月から、火山岩の若手研究者である小屋口先生(東大)が赴任されました。川辺先生が米国から帰国されると、大谷先生がオーストラリアに2年間行かれ、昨年から今年にかけて大野先生が米国に出張され、教室もようやく国際的な活動期に入ったようです。また、松尾先生は釣りに、棚部先生はパソコンに、松川先生は恐竜の足跡に、藤野先生は夕方のスポーツに、皆川先生は山の写真に、川辺先生は温泉に、加藤先生はドライブに、大谷先生は機械いじりに、いずれも趣味と実益を兼ねて御活躍中です。

教室の研究設備も次第に充実し、電顕、重力計、磁力計、さらに今年はダイヤモンドが作れる超高圧装置が設置されます。パソコンも各研究室に設備され、その影響もあるのか就職もソフト関係に進む方が増えて来ました。就職では愛媛県の高校の先生もやっと誕生しました。国家公務員の第一種(昔の上級)に何時誰が合格するか、今後の楽しみです。

昨今は求人も含めて来学される卒業生も増えて来ましたが、何時でも遠慮なく御来学下さり、社会人としての近況をお知らせ下さい。最後に皆様の益々の御活躍をお祈り申し上げます。(桃井 記)

愛媛大学朋友会館

愛媛大学同窓会館建設については種々御協力下さいまして有り難うございました。その後の経緯をお知らせします。

1. 募 金

愛媛大学開学 30 周年（昭和 54 年）記念事業として、各学部同窓会が一致協力して同窓会館建設を企画したのは昭和 52 年 10 月でした。爾来、教職員の皆様や、同窓生又は父兄の皆様をはじめ関連企業等各方面の御理解と御協力により、御拠出金は総額 1 億 2 百万に達し、理学同窓会各位からは 6 百万余を頂きました。厚くお礼申し上げます。

2. 建築・落成

御寄附総額が目標の 2 億円には及びませんでした、国費 1 億円をもって、集会室・資料室等（寄附金）と宿泊施設（国費）を松山市道後樋又の愛媛大学事務局敷地内に同時に建設、今年 5 月 14 日会館式が行われ、5 月 20 日オープンしました。

3. 名 称

愛媛大学同窓会館の名称を使用しなかったのですが、諸般の事情が不可能となり、愛媛大学朋友会館（大学側の名称・愛媛大学職員会館）となりました。

4. 会館の概要

会館は鉄筋 2 階建 1,148 m²で、詳細は平面図の通りです。入口は、護国神社南側にある本部（附属小学校跡）正門の東側にあります。なお、宿泊施設は各室バストイレ付です。

5. 料 金

各室の使用料金は下記の通りで、宿泊時の朝食（450 円）は前日申し込めば用意出来ます。

会議室等

室 名	定員	施 設 使 用 料				雑 費			
		午前	午後	夜間	全日	午前	午後	夜間	全日
		9～12	12～17	17～21	9～21	9～12	12～17	17～21	9～21
大会議室	名 80	円 2,450	円 4,080	円 3,270	円 9,790	360円 (720 660)	600円 (1,190 1,090)	480円 (960 870)	1,440円 (2,860 2,610)
小会議室	12	1,040	1,730	1,380	4,140	70 (180 160)	110 (300 270)	90 (240 210)	260 (720 640)
和室(10畳)	10	370	610	490	1,460	50 (100 170)	70 (160 270)	60 (130 220)	170 (390 650)
和室(8畳)	8	300	500	400	1,190	30 (100 170)	50 (160 270)	40 (130 220)	120 (390 650)

宿 泊 室

室 名	定 員	施 設 使 用 料	雑 費	計
宿泊室(ツイン)	2	1 名の場合 800	980 (110 250)	1,780 (1,890 2,030)
		2 名の場合 1 名につき 550	1 名につき 970 (60 130)	1,520 (1,580 1,650)
宿泊室(シングル)	1	650	980 (110 250)	1,630 (1,740 1,880)

(注) 雑費及び計の欄中()書の上段は冷房、下段は暖房期間中の加算料金及び合計額です。

6. 休館日

12 月 28 日から翌年 1 月 3 日まで

7. 使用範囲

会館は、本学職員、非常勤講師、本学に公務のため来学した者、その他管理者が適当と認めた者が使用出来、同窓会会員の皆様も使用出来ますので、母校を訪ねられて旧交を温められたり、研修を深め合う場として大いに活用して下さい。

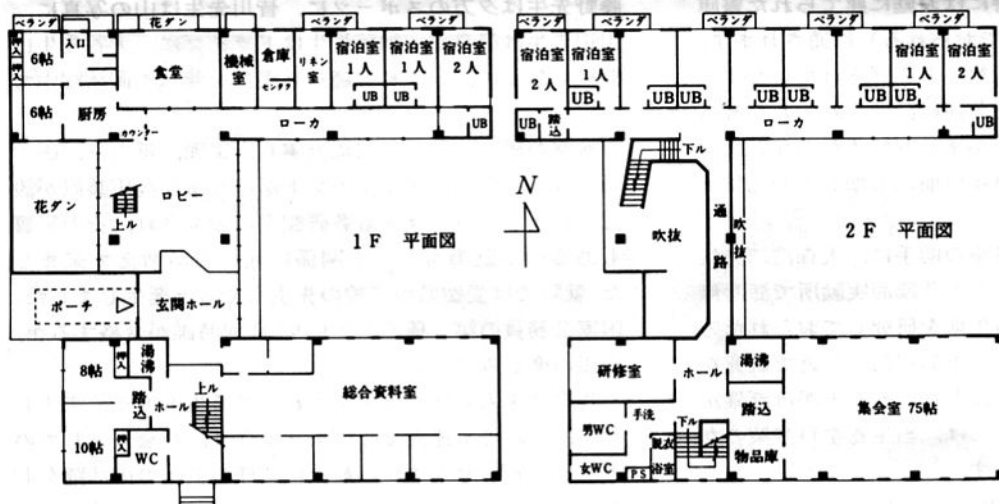
8. 予 約

会館を使用したい方は、原則として使用の 3 日前までに所定の使用願を用度係に提出して許可を受けることになっておりますが、予約及び方法等は下記でお尋ね下さい。

勤務時間帯 愛媛大学
経理部経理課用度係
Tel(0899)24-7111
(内線 2146)

上記時間帯以外
愛媛大学朋友会館受付
Tel(0899)23-4049

愛媛大学朋友会館 平面図



使用日時の変更及び中止の場合は、使用日前日までに上記に申し出て下さい。但し、前納した施設使用料は返却されません。宿泊の場合、使用期間は5泊以内、空室がある場合は当日でも申し込みが可能です。

9. その他

会館は国に寄附しましたので、管理は大学がしますが、宿泊については民間委託となりました。より使いやすい施設にするため、運営基金(約3千万円)を準備し、同窓会も朋友会館委員会を作って会館運営の手助けをすることになりました。

この度、新卒の方の御父兄に運営基金の募金をお願いをしました。御協力をお願いします。又、諸兄姉の中で運営基金に御協力希望の方がおられましたら、金額の多少は問いませんから、下記宛お送り下されば幸いです。

郵便振替 徳島 0697 愛媛大学同窓会館建設期成会
銀行口座 伊予銀行道後支店 116-8266 愛媛大学同窓会館建設期成会

募 金 状 況 報 告

昭和60年5月25日現在

松 高	6,619,000 ^円	医 学	1,330,000 ^円
法 文	8,985,500	企 業	20,962,000
理 学	6,094,544	一 般 そ の 他	4,052,000
教 育	34,146,651	計	101,416,261
工 業 会	16,000,000	運 営 基 金 (新卒父兄)	640,000
農ユーカリ会	3,226,566	合 計	102,056,261

収 支 状 況 報 告

昭和60年5月25日現在

収 入		支 出	
募 金 額	102,056,261 ^円	人 件 費	10,505,540 ^円
銀 行 利 息	6,530,684	旅 費	970,030
郵 便 利 息	11,621,605	印 刷 費	2,464,006
		通 信 費	2,988,140
		消 耗 品 費	121,296
		支 部 経 費	5,477,056
		建 築 費	73,902,000
		寄付用什器・備品	2,004,490
		運 営 費	153,600
		雑 費 そ の 他	1,240,809
		落 成 式 費 用	142,500
計	120,208,550	計	99,969,467

差引現在額 20,239,083円

5月25日以降、更に什器・備品費に充当し、残金は会館運営基金とします。

会館設立寄附者一覧

(各教室・アイウエオ順)

【数 学】

秋山 光	麻生 四郎	一色 準	飯野 明典	(池内) 進
池添 俊一	石田 茂	石原 靖介	井出 修	井出 博文
伊藤 孝男	伊藤 進	糸瀬 善人	井上 徳治	井上 浩良
井上 明久	今井 孝夫	今井 誠司	上野 行徳	梅谷 正弘
ト部 和晃	大瀧 慈	岡崎久美子	岡崎 美恵	岡田 秀世
緒方 保雄	小川 正人	越智 利夫	(尾中) 妙子	(小野) 隆子
片山 圭右	加藤 武雄	門田 敏男	難波 (幸一) 義昌	菊谷 (金子) 和子
株本 明俊	河内 保正	賀原 美紀	金崎 (工藤) 和美	国貞 重松
窪地 稔	(豊田) 惟任 ちえみ	家本 宣幸	阿部 彰夫	小谷 裕吉
小西 敏雄	近藤 晃	合田 正澄	崎山 三郎	佐田 信二
山藤 悟	篠原 賢剛	清水 博道	白井 正一	(白石) 吉田満智子
新倉 長	地下 洋	末金 守	須賀 敬三	(香原) 太井子紀代子
鈴木 武	須之内正和	須山 美紀	仙波 健三	高市 成方
高野 静	(武田) 高野 晃	高橋 典大	高橋 功	奴野 利六
竹谷 宏彦	黒河 稔	武田 (玉蔵) 健治	高橋 道雄	田中 秀明
田中 直	谷田 元俊	(玉蔵) 田沢 純子	田村 浩一	堤 永保
続木 昭史	恒岡 良治	前田 栄子	仲井 毅	中島 吉穂
中田 英夫	中平 重樹	中村 達雄	中本 大司	中森 尚子
長井 博志	長井 千照	長井 幹夫	長崎 勝	永野 良信
夏井 紀明	西川 (豊松) 雅信	西野 嘉郎	二宮 裕慈	野本 久夫
野本 邦雄	益田 恭子	八田 俊一	熊野 信代	萩原 (平井) 照久
浜田 守	林 通世	半田 貴久	日野 健三	佐々木利生
平田 哲	平塚 公滋	廣川 晋	深沼 力	深沼 静良
藤井 大光	藤井 清治	藤井 香	藤田 和憲	藤田 正喜
藤本 福美	藤本 進	筆脇 光宏	古川 治郎	星加 憲司
細川 善男	堀内 重義	前原 龍二	楓田 和子	正木 啓進
松田陽太郎	真部 誠	道根 慶治	水口 (六車) 治雄	宮地 郁雄
宮本 交作	三好 太郎	三好 理律	(武智) 厚子	村上 一郎
毛利 信正	森 茂之	森岡 宏	(森賀) 純子	守口 良材
森田 忠彦	森本 直治	八木 善隆	鈴木 (矢野) 宏美	山内 昌司
山川 悦男	山下 正昭	山田 吉雄	山之内啓司	山本 敏明
山本 仁士	吉田 寛和	脇川 茂樹	渡辺 淳	渡部 正
渡部 一二	渡部 淳	和田 盛行		

【物 理】

阿川 治	池田 逞	板本 政和	稲実 宏	井上 誉恒
井上 昭彦	井上 和式	今井喜代司	岩佐 正彦	植田 耕司
上野 健二	上満 眞文	大石 勉	大坂 章文	大西 章三
大野 清利	大宮不二彦	大村 哲也	大本 清美	大山 昇
岡田 賢一	岡部 昭彦	岡本 康志	戒能 康	戒能 通孝
柿原 成行	笠井 穰	鹿島 雄司	柏木 悦夫	粕谷 俱弘
加藤喜代一	加藤 裕史	門田 正一	神本 謙治	(河合) 土屋都多恵
河合 剛	川島 祥孝	川村 敏博	河村 佳洋	國重 享史
久保 光則	栗原 武雄	河野 宏二	児玉 光広	小林 正洋
近藤 新一	後藤 利雄	坂井 正文	酒井 官	坂田 雅昭
坂本昌士郎	佐々木 芳	佐藤 信治	佐野 富茂	澤 健一
塩崎 裕正	四宮 久幸	清水 明	白石 通	進藤 昌典
菅原 満男	杉江 宏一	徳本 睦英	砂田 洋一	須上 忠昭
清家秀一郎	清家 優一	関谷 圭子	仙波 卓磨	徳宇利 宏
高左 禎	高取 伸二	高橋 勝久	高原 淳二	武智 啓明
武政 卓志	立田 洋杜	田中 敏雄	谷本 盛光	田淵 充
田淵 博史	(津島) 徳永 祥子	津田真一郎	鶴原 誉	外川 雅之
徳永 光男	徳永 宏	徳丸 定生	豊嶋 修治	土居卯右衛門
仲田 猛裕	中対 宏	中塚 公夫	中村 光秀	中谷 亮
中山 滋	永井 秀明	梨木 優	西田 広高	福本 昌子
西村 公宏	西村 一夫	西山 保	二宮 志郎	野田 隆
延谷 徹	野本 (新野) 秀行	白玖 圭一	晶 真清	濱田 光洋
濱田 学	大西 俊昭	原 信行	松垣 英行	久松 直樹
肥前 聡	平岩 俊幸	福嶋 祥司	藤井 健一	藤井 真治
藤岡 淳	藤田 俊光	藤田 秀樹	藤本 禮允	藤原 義隆

別宮 敏朗	松浦 俊雄	九山 雄二	宮武 誠一	宗岡 明伸	森岡 淳二	八木 節夫	大和 順一郎	渡辺 和人
松本 光夫	三浦 三好	村上 英文	森田 正彦	矢野 哲規	山成 謙造	渡部 和裕		
外田 忠士	水田 啓造	村沢 一貴	森西 啓司	矢部 起生	奥谷 保信			
豊治 忠士	春寿 博	森松 秀治	山田 泰弘	山本 喜美夫				
増田 友一	溝淵 和博	森松 秀治	山田 泰弘	山本 喜美夫				
晴造 一雄	和博 梯	昭夫 秀治	山田 泰弘	山本 喜美夫				
松井 松野	光藤 耕二	森岡 幸夫	山田 裕司	吉川 秀司				
康訓 達夫	高明 耕二	征昭 幸夫	山田 裕司	吉川 秀司				
松尾 三浦	三好 森	安井 松浦	山本 李					
野火 昌三	清徳 俊朗	征夫 紀子	福晃 根植					
松岡 三田	三好 森	安永 山上	袖山 脇本					
丈司 泰藏	正尚 英雄	隆幸 邦夫	貴志 典司					
松本 光田	村上一郎	矢吹 通浩	吉田 渡部					
湛 慶一郎	玲子 英樹	芳樹 典人						
松本 高岡	母袋 森	山下 吉永	和田 安至					
喜義 京子	次郎 郁夫	武男 威夫	雅樹 安至					
松本 三好	元成 田中	山内 河原	吉村 一夫					

〔化 学〕

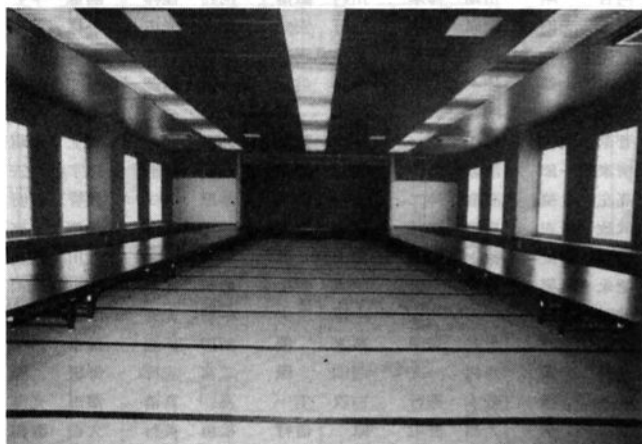
相原 経天	安藤 広之	妹尾 満久	石本 京子	稲垣 典雄	井上 博章	上野 忠見	江川 嘉一
大西 祐輔	岡田 圭三	小田 克己	賀数 昌治	加地 正義	龜山 勝之	北村 福男	久米 龍一
小暮 照彦	坂井 俊彦	佐藤 尚文	重松 準一郎	島田 一馬	清水 裕仁	仙波 由美	高杉 昭義
詫間 浩和	田辺 忠男	塚脇 洋二	金城 玲子	土井 純男	永井 宗一	長岡 義則	西 奉文
野中 隆一	原 幸彦	半田 国子	古川 順一				
東 長雄	飯尾 忠博	石川 眞理子	井手 克	三瀬 富勝	岩佐 卓也	撰 博志	
大野 直孝	尾川 健	越智 幸	柳部 康寿男	門島 弘	川 聡美	木野 本恵一	鴻上 武久
小峰 長功	佐々木 利夫	芳崎 佐美子	芝 昇一	清水 穰	白井 隆行	曾我部 国久	高橋 勇夫
玉井 哲治	津乗 運弘	友田 義一	成行 真司	西本 勝訓	文子 秀臣	日野 恵子	本浄 高治
長崎 良治	稲田 喜美子	梶原 康太郎	金崎 裕之	谷 智美	国安 基則	河野 雄次	古森 香代
島津 温子	柴田 美一	清水 桂	白石 征	曾我部 昌治	高橋 哲	田嶋 邦彦	玉井 広志
清水 俊治	仙田 裕臣	高岡 大輔	高橋 九美雄	田中 良典	寺田 泉	鳥飼 泰仲	中矢 挺子
永江 健次	野崎 雄之	浜下 隆資	深井 万里江	船引 恭平	増田 玲子		

〔生 物〕

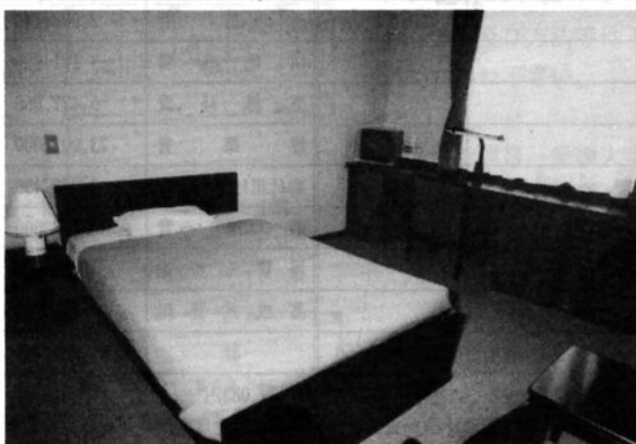
赤松 正喜	阿座 哲朗	須之内 幸枝	山本 早苗	岩田 亨	宇仁 茂彦	大瀬 戸光明	大竹 信子	奥山 正明	笠原 東洋児	門田 雄三	亀岡 美砂子	木村 慎司郎	黒木 西三	小池 一美	坂口 真紀	澤田 知夫	芝本 昌夫	城尾 昌範	竹本 義枝	伊藤 慶美	中林 司	西尾 隆昌	原田 宏	古市 順教	松本 千景	高橋 順子	森野 秀明	弓削 宏之	大上 朝子
秋本 勇	安部 博一	石川 和男	伊藤 正木	上原 伸一	宇和 孝	太田 章弘	大野 すが	越智 脩	片岡 至	嘉寿 敬栄	川本 中	行天 淳一	渡部 治江	児玉 裕敬	沢崎 敏彦	庄司 敬	清水 敬次	鈴木 邦弘	橋本 知子	出口 亘	長沼 和夫	西村 勲	久松 伸行	古川 満男	鈴木 美紀子	三輪 雅幸	矢野 晴男	吉岡 隆子	
秋山 佳史	井川 瀧子	石川 恵子	稲荷 公一	上村 亨	川崎 忠子	太田 茂樹	岡添 彬	落合 威彦	片上 文彦	金田 妙子	岸上 幸生	久保田 信	桑原 雅之	小寺 直規	佐々木 靖夫	塩見 義樹	清水 宏	洲之内 修吾	立花 靖雄	鴻 一晶	名倉 善郎	野田 愛子	細川 和子	三谷 嘉毅	村上 哲英	山中 智博	吉田 光昭		
麻島 武	井口 順子	井上 豊治	佐伯 隆昌	大上 正善	大谷 武彦	岡元 秀樹	小野 敬治	片山 宏	加納 盟子	鬼島 健二	栗田 尚章	桑原 一司	近藤 幸子	定金 敬子	重松 貴美	下内 啓万	高田 啓介	田中 隆	金谷 多恵子	名越 誠	橋本 光男	福山 欣司	堀内 真理	三原 勉	元山 千秋	山本 浩史	吉元 純一		
浅田 伸彦	井口 恵一郎	原 善子	岩崎 浩一郎	森 翠子	大澤 一藏	大津 晴男	萩田 隆悟	嗣子 徹	鎌田 真司	木曾 義忠	高島 つづ美	桑原 孝	近藤 雅樹	佐山 隆則	篠永 哲	白神 悟志	矢野 迪子	玉井 洋一	中川 悌二	灘部 克孝	原 正道	藤井 保信	増本 遵	徳永 博子	森下 日出旗	山本 緑	渡部 清		

〔地球科学〕

栗飯原 広基	赤工 浩平	位坂 葉子	石井 雅裕	(伊藤) 文野
今田 修司	浴坂 公博	遠藤 乃之	大谷 博志	大塚 康雄
緒方 信一	河野 博之	神月 靖	近藤 新二	佐々木 陽子
佐藤 理昭	澤村 信英	清水 裕	鷺見 武富	利根 敦範
中村 義彦	長野 誠	肥後 和敬	福田 泰二郎	松本 和彦



大会議室



宿泊室

昭和58・59年度理学部卒業者及び 大学院理学研究科修了者名簿

〔数 学〕

〈59年3月大卒〉

天 野 義 博	愛媛県立伊予高等学校
石 崎 美 恵	三菱電機コントロールソフトウェアKK
石 丸 靖	松山市立鴨川中学校
石 丸 洋 二	三菱電機コントロールソフトウェアKK
井 出 博 文	新居浜市立商業高等学校
大久保 龍 一	富士通KK西支店
押 田 真 一	松山市立南中学校
株 本 明 俊	広島県立祇園北高等学校
鴨 川 恵美子	日本電気ソフトウェアKK
萱 嶋 宏 康	岡山県立高松農業高等学校
川 井 郁 男	新田高等学校
久 利 佳 秀	四国リコーKK
佐 伯 雅 弘	千葉県立柏陵高等学校
堺 浩 徳	自営
佐 野 良 一	関西日本電気ソフトウェアKK
清 水 博 道	愛媛県立丹原高等学校
杉 野 恵 子	松山電子計算センター
西 山 顕 郎	大阪府立和泉工業高等学校
二 宮 裕 慈	愛媛県立宇和島東高等学校
彦 田 順 也	愛媛大学農学部附属農業高等学校
福 原 淳 二	松山市立勝山中学校
藤 本 竜 哉	愛媛県立松山盲学校
堀 内 重 義	愛媛県立吉田高等学校
正 木 啓 進	自営
松 金 寛 道	阪神エンジニアリングKK
真 部 誠	四国日本電気ソフトウェアKK

〈59年3月院修了〉

小 西 敏 雄	松山東雲短期大学助手
山 藤 悟	東益田中学校

〈59年9月大卒〉

東 丸 達 哉	高宮測量設計
---------	--------

〈60年3月大卒〉

青 木 英 哉	愛媛県警
今 井 千 佳	四国日本電気ソフトウェアKK
岩 田 徹	大阪機工KK
内 田 清 文	貞光中学校
大 賀 祥 二	愛媛大学研究生
大久保 雅 哉	シャープKK
尾 崎 聡	大阪府立茨田高等学校
加 藤 徳 彦	滋賀県立彦根東高等学校
河 野 貴 則	中国日本電気ソフトウェアKK
衣 川 康 裕	東大阪市立枚岡中学校
久 保 康 幸	筑波大学大学院（数学）
合 田 史 彦	日本事務器KK
小 畑 定 久	愛媛県立東予工業高等学校
小 林 正 朗	広島県立因島高等学校
齋 藤 旭	古河電気工業KK
白 川 英 治	今治市立北郷中学校
鈴 木 敏 介	今治市立南中学校
住 本 博 文	広島県立上下高等学校
清 家 純 三	愛媛県立宇和高等学校
竹 内 千 沙	日本電気ソフトウェアKK
田 所 恭 介	愛媛県立新居浜東高等学校
田 野 幸 治	四国日本電気ソフトウェアKK
徳 永 正 樹	愛媛県立八幡浜高等学校定時制
豊 嶋 弘 文	香川県立笠田高等学校
中 岡 生 文	愛媛県立八幡浜工業高等学校
中 塚 浩 二	阪神エンジニアリングKK

中 野 章 裕	ワールドビジネスセンターKK
中 本 伸 治	広島県立広島養護学校
垣 生 雅 孝	愛媛県立今治西高等学校定時制
濱 中 修	愛媛大学大学院（理）
日 野 豊 樹	愛媛県立小松高等学校
福 島 和 仁	大川町立大川第一中学校
藤 本 昭 二	愛媛県立西条農業高等学校
細 川 修	KKセガ・エンタープライゼス
松 下 武 司	愛媛大学大学院（理）
三 好 靖 彦	山口県立下関養護学校高等部
森 田 洋 一	徳島県立中央高等学校

〈60年3月院修了〉

天 野 知 昭	川内英数ゼミナール
岩 田 洋 明	神戸大学研究生
小野寺 雅 文	徳島県立那賀高等学校木頭分校

〔物 理〕

〈58年9月大卒〉

武 田 章 浩	徳島県立辻高等学校
---------	-----------

〈59年3月大卒〉

上 野 健 二	上浦中学校
園 藤 誠 二	富士通KK
大 島 滝 男	弘前大学大学院（理）
尾 野 克 典	日本電気KK
戒 能 通 孝	松下寿電子工業KK
香 川 友 秀	日立電子サービスKK西部支社
加 勢 正 隆	愛媛大学大学院（理）
片 山 修 一	シャープKK
加 藤 裕 史	大阪大学工学部（院）
神 本 謙 治	日本データゼネラルKK技術部技術1課
木 下 卓 己	アイバック
木 村 一 能	岩通ソフトシステムKK（岩崎通信機KKより出向）
小 島 賢 二	三菱電機コントロールソフトウェアKK
阪 田 匡	日立マクセルKK
白 石 豪	広島大学大学院（理）
杉 江 宏 一	関西日本電気ソフトウェアKK
鈴 木 一 士	日本テキサスインスツルメンツKKリニア製品企画課
関 谷 圭 子	伊予コンピューターサービスKK
武 田 康 秀	大洲市役所
武 政 卓 志	日本ブリタニカランゲージセンター
田 中 敏 雄	日立西部ソフトウェアKK
外 川 雅 之	キャノン電子KK
富 永 浩 史	松茂中学校
野 田 穂 積	西川化成KK
濱 田 学	四国通商産業局総務部調査課
平 井 誠	愛媛大学大学院（理）
藤 井 真 治	日本原高等学校
藤 川 正 樹	徳島県立穴吹高等学校穴吹分校
傍 士 雅 仁	建設省四国地方建設局徳島工事事務所調査1課
丸 井 敏 仁	グラフテックKK
矢 野 哲 規	富士通テンKK
山 本 喜美夫	大和製罐KK
若 田 益 業	松山市立興居島中学校

〈60年3月大卒〉

阿 部 由起子	三菱電気コントロールソフトウェアKK伊丹事業所
市 川 雄 規	府中市立オー中学校
大 田 正 弘	本田技研工業KK
奥 野 國 男	野村立石電機KK
樫 本 公 彦	姫路市役所
瀧 上 雅 樹	富士通テンKK
川 中 浩 史	愛媛大学大学院（理）
菊 地 英 明	愛媛県立野村高等学校
菊 地 良 文	日立超L S I エンジニアリングKK

吉 瀚 壽 東京大学大学院（理）
 木 下 和 也 香川県立土庄高等学校
 清 水 美代子 四国日本電気ソフトウェアKK
 橋 正 則 住友重機工業KK
 田 中 正 博 富士通VLSI設計KK
 筑 後 泰 造 オリパス光学工業KK
 中 部 修 一 兵庫県立赤穂高等学校
 西 山 義 浩 古野電気KK
 二 宮 清 四国日本電気ソフトウェアKK
 長谷川 博 明德義塾高等学校
 福 井 裕 之 ミノルタカメラKK
 細 川 博 資 岡山市立操南中学校
 宮 本 敦 C S K コンピューターサービスKK
 村 上 浩 二 愛媛県立弓削高等学校
 山 田 勝 規 東京大学生産研究所研究生
 山 本 弘 明 シャープKK
 由 元 正 弘 日立コンピュータ機器KK
 米 田 稔 鳴門教育大学大学院
 寄 本 浩 二 スタンレー電気KK

〈60年3月院修了〉
 井 上 和 式 三菱電機KK
 至 田 雅 一 大阪府立金剛高等学校
 柳 原 敦 富士通KK

〔化 学〕

〈59年3月大卒〉
 安 藤 広 之 中国化薬KK江田島工場
 石 田 成 子 サンスターKK
 居 藤 哲 郎 愛媛大学大学院（理）
 伊 藤 真 里 大塚製薬KK
 井 上 博 章 マツダKK
 井 上 将 彦 愛媛大学大学院（理）
 上 田 仁 フロン化成KK滋賀工場
 上 本 裕 一 愛媛大学大学院（理）
 大 野 彰 子 愛媛大学医学部衛生学教室
 小 野 敏 浩 吉富製薬KK
 藤 岡 恵美子
 河 原 浩 広島県立久井高等学校
 木 谷 裕 史 今治市立美須賀中学校
 森 毅 愛媛大学大学院（理）
 松 本 恵 フィガロ技研KK
 久保田 秀 行 愛媛大学大学院（理）
 佐 竹 浩 愛媛大学大学院（理）
 白 戸 令 司 タケチゴムKK
 高 松 公 子 愛媛県立衛生研究所
 滝 由美子 日本電気ホームエレクトロニクスKKソフトウェア部
 谷 井 美千代 マルトモKK
 玉 井 広 志 新田高等学校
 鳥 越 久 司 愛媛大学大学院（理）
 永 長 誠 愛媛県立今治西高等学校
 永 易 幸 道 今治市立北郷中学校
 秦 宏 樹 愛媛大学大学院（理）
 花 崎 保 彰 愛媛大学大学院（理）
 濱 田 真 人 神島化学KK
 藤 井 潔 貴 札幌労働基準局
 藤 田 恵 子 日立コンピュータエンジニアリングKK
 藤 田 奈 尾 システムエンジニアリングKK
 松 尾 由 美 今治市立北郷中学校
 松 岡 利 之 KK金陽社京都工場管理設計係
 三 田 泰 蔵 荒川化学工業KK
 水 口 由 美 タカキペーカリー中央研究所
 三 好 正 尚 坂出市立東部中学校
 森 本 千 恵 愛媛大学医学部生化学才二教室
 吉 永 雅 樹 愛媛大学大学院（理）

〈59年3月院修了〉

石 川 優 二 神化学及血清療法研究所
 大 林 栄 一 田辺製薬KK
 岡 田 圭 三 大塚製薬KK徳島研究所
 梶 田 智 京セラKK鹿児島国分工場LーPKG技術部
 金 崎 裕 之 大阪曹達KK技術本部研究所
 見 寶 勉 小西六写真工業KKA V事業計画室磁気材料開発グルー
 芝 昇 一 愛媛県立松山商業高等学校
 友 田 英 幸 KKネオス
 成 行 真 司 四国製紙KK
 三 浦 昌 三 四国化成工業KK
 吉 田 芳 樹 藤沢薬品工業KK中央研究所

〈59年9月大卒〉

馬 越 初 朗

〈60年3月大卒〉

池 田 理 恵 KK南海放送
 石 田 多美代 愛媛大学機器分析センター
 石 丸 靖 夫 愛媛県立宇和島南高等学校
 井 上 純 子 富士フイルム制御KK
 井 町 宏 愛媛大学大学院（理）
 大 嶋 美 恵 愛媛大学農学部
 大 塚 功 愛媛大学大学院（理）
 小 野 綾 子 三菱電機コントロールソフトウェアKK
 桑 野 信 之 福岡県金田町立金田中学校
 小 出 秀 樹 愛媛大学大学院（理）
 近 藤 顕 子 愛媛大学聴講生
 高 本 嗣 久 愛媛大学大学院（理）
 竹 内 節 子 鐘紡KK開発研究所工学所有権センター
 竹 内 昌 代 愛媛県庁
 武 田 抄 子 KKノエビア化粧品滋賀研究所
 千 守 敬 日本電気技術情報システム開発KK
 徳 永 里 香 タケチ工業ゴムKK
 直 野 律 子 今治市立日吉中学校
 二 宮 啓 二 愛媛県立北宇和高等学校
 羽 浦 正 枝 愛媛県立南宇和高等学校
 濱 田 圭 子 愛媛県立松山西高等学校
 福 田 和 之 愛媛大学大学院（理）
 藤 村 靖 愛媛大学大学院（理）
 増 井 義 之 大阪大学大学院（基礎工学・合成化学・村橋研究室）
 李 勇 愛媛大学大学院（理）

〈60年3月院修了〉

坂 本 雅 司 出光興産KK中央研究所
 高 岡 幸 二 山之内製薬KK中央研究所
 詫 間 浩 和 日本油脂KK武豊工場
 田 中 悦 二 三菱製紙KK
 谷 弘 幸 神戸大学大学院（自然科学）
 SVチルビクラーマン 名古屋大学大学院（理）
 鉄 本 融 S R L 中央研究所
 橋 本 公 司 大塚製薬KK
 廣 井 義 雄 出光興産KK中央研究所
 光 田 慶 一 日本電子KK

〔生 物〕

〈59年3月大卒〉
 天 野 寿 一 名古屋大学大学院（理）（生物・動物第2講座）
 荒 武 忍 福山市立城北中学校
 池 田 祐 二 高知大学大学院（農）
 石 部 文 子 中国日本電気ソフトウェアKK
 出 石 公 司 愛媛大学大学院（理）
 伊 藤 正 木 三重大学大学院（水産）
 今 井 光 子 東和科学KK
 上 枝 英 樹 持田製薬KK
 上 岡 壽 美 松山市立拓南中学校
 江 口 静 也 長崎大学大学院（水産）（海洋生物教室）

江藤暢美 広島県立葦陽高等学校
 (大月)
 大竹信子
 岡崎憲政
 越智奈保子 高田会計事務所
 亀岡美砂子 八幡浜高等学校定時制
 小出剛 東京都立大学大学院(理)生物・遺伝研
 坂口真紀 愛媛大学大学院(理)
 重松貴美 幸塚眼科
 篠原栄次 東予市立東中学校
 下川由美 愛媛大学教養部生物学教室
 下山俊和 I C I ファーマーKK福岡事務所
 地下芳孝 香川県環境保健部環境衛生課
 田中隆 愛媛大学大学院(理)
 谷修 科学映画製作所
 出口亘 次城大学研究生(理)
 楠木弘子 KK松宮
 仁木宏典 京都大学大学院(理)
 半田丈士 松山市役所環境部公害課
 福山欣司 東京都立大学大学院(理)
 藤澤照司 岡田化学工業薬品KKオー営業部オ三課
 松浦和美 KKタカキベーカーリー
 松木昭治
 山中智博 愛媛県立吉田高等学校

<59年3月院修了>

植田育男 江の島水族館
 加藤寿朗 岐阜県立岩村高等学校
 泉水奏 東京大学大学院(理)
 松沢淳 大塚製薬KK徳島研究所安全性研究部

<60年3月大卒>

諫山陽太郎 愛媛大学大学院(理)
 石丸英彦 愛媛大学大学院(理)
 井原由香 日本食研KK
 氏本義光 東亜医用電子KK
 榎本晋也 自営
 替地美香
 河田正人 愛媛大学大学院(理・臨海)
 川村顕 愛媛県立松山工業高等学校(定)
 北村志郎 愛媛大学大学院(理)
 木村達郎 アイシン精機KK
 小宮明弘 日本タイムシエアKK
 佐伯城史 松山市役所
 佐藤泰司 愛媛大学大学院(理)
 清水奈美 日本電気ソフトウェアKK
 城下五美 四国日本電気ソフトウェアKKシステム技術部
 水津幸子 KK富士通中国システムエンジニアリング
 鈴川浩司 愛媛大学大学院(理)
 仙波早苗 松山市立東中学校
 田中好久 愛媛県立宇和島水産高等学校
 徳本恵理子 愛媛大学法学部助手
 野々下一宏 オーン・ダイアクソステック・システムズKK広島営業所
 濱田由美子 愛媛県酪農業共同組合連合会
 兵頭美香 幸塚眼科
 藤岡由美子 愛媛大学医学部オ2外科
 丸木由美子 KK関洋紙店印刷所
 三宅由里子 日立コンピュータコンサルタントKK
 向井ひとみ 四国日本電気ソフトウェアKK
 矢野浮美
 山内茂樹 愛媛県立宇和高等学校

<60年3月院修了>

井口恵一朗 東北大学農学部研究生
 岩本昌之 愛媛大学大学院(医・生化学オ2教室)
 金谷一司 日本抗体研究所
 須賀秀夫 愛媛県立松山南高等学校
 鈴木邦弘 日本食研KK
 米倉浩晋 日本農薬KK

〔地球科学〕

<59年3月大卒>

栗飯原広基 KK電通PRセンター
 伊藤文雄 川之江市立北中学校
 大谷博志 日立コンピュータエンジニアリングKK
 小田和範 KK四国銀行丸亀支店
 河上達也 自営
 河野博之 日本物理探検KK東京事務所
 上阪佳史 愛媛大学大学院(理)
 佐藤理昭 久万町役場
 高市和義 愛媛大学大学院(理)
 利根敦範 コンピューターサービスKK
 中野雅恵 日本ナレッジインダストリKK
 西窪知己
 沼敏彦
 野田二郎 愛媛大学大学院(理)
 花田亮二 福岡県立小倉南高等学校
 福田泰二郎
 藤瀬吉博 日本ボーリングKK
 牧圭介 灘神戸生活協同組合
 増井芽 愛媛大学大学院(理)
 松本和彦 愛媛大学大学院(理)
 村上敏雄 愛媛大学大学院(理)
 森浩介 愛媛大学大学院(理)
 山田眞司 徳島県鳴門公共職業安定所
 山田隆史
 横山英樹 高梁市産業建設部都市開発課
 吉田英司

<59年3月院修了>

清水裕 日本プロセスKK日立事業所
 杉野静弘 KKS P C

<60年3月大卒>

植木隆 マークランド電子工業KK
 宇都宮勉 愛媛県立松山工業高等学校
 江藤史哉 愛媛大学大学院(理)
 小笠原恵子 東洋エンジニアリング
 金子良枝 愛光幼稚園
 北脇浩 大和探査技術KK大阪支店
 木村博之 富士通エフ・アイ・ビーKK
 久門賢治 四国日本電気ソフトウェアKK
 黒田利花 愛媛大学聴講生
 桑原英了 愛媛大学研究生(教養)
 七條強 KK応用地質調査事務所地盤工学研究所
 関谷佐登美 KK関洋紙店印刷所
 巽克義 愛媛大学聴講生
 田中智之 石油資源開発KK
 鼓麻希 KKメルコムビジネス
 徳本正 平生町立平生中学校
 廣田和夫
 藤木透 自営
 藤田耕二 愛媛大学聴講生
 風呂和志 愛媛大学大学院(理)
 宮地和夫 川崎炉材KK
 村上正信 四国日本電気ソフトウェアKK
 森下整 (株)旭螺子製作所
 山本靖志 KKエイトコンサルタント
 米田英樹 愛媛大学大学院(理)

<60年3月院修了>

遠藤乃之 KKリコー
 勝田毅 愛媛大学聴講生
 照屋純 日本工営KK地質部
 福島和子

愛媛大学理学同窓会東京支部

昭和57年4月11日、学会館で代表者が会合、直ちに東京支部設立準備会に切替え、支部設立の準備にかかりました。

昭和57年5月30日、銀座アサヒビヤホールで設立総会が開かれ、会員約50名が参加、会則がきめられ、三好昭一支部長（文理・物・S28卒）、伊藤昭三副支部長（文理・化・S28卒）を選出しました。

昭和60年6月29日、三菱重工世々木会館で第2回総会が盛大に開かれました。約40名が参加、役員改選で志賀正良支部長（文理・化・S30卒）、栗田尚章副支部長（文理・生・S28卒）が選出されました。

東京支部は、東京都、関東各県及び山梨県在住の愛媛大学理学同窓会会員で組織されています。今回案内状が約々返送されたそうです。この地区にお住まいの方で案内状の届かなかった方は、下記まで現住所などご連絡下さい。支部名簿を完備したいそうです。

〒233 横浜市港南区芦ヶ谷5-16 4

志賀正良支部長宅

（越智 記）

お 願 い

下記の方は名簿発行時、消息がつかめなかった方です。消息ご存知の方はご一報下さい。なお、この方以外でもこの会報がとどかない方が多数おられると思われます。この2年間に移動された方を中心に、ご友人の情報をおよせ下さい。

数学	吉野 勝美 (安倉)	西岡 一雄	松川勇一郎
	福島 逸子	佐藤 健一	山田 政義
	柳瀬 五郎	十亀 輝朗	水田 満子
	山田 千尋	片岡 大典	古西 弘道
	栗林 宏文	小坂 賢一	渡辺 浩二

物理	渡辺 憲治	吉原 幸雄	濱崎 元成
	渡辺 侑	齊藤 謙二	佐々木勝郎
	西尾喜久男	塩崎 敏郎	妹尾 進司
	新谷 信行	高橋 治久	小川 隆志
	和田 一彦		

化学	越智 寿	松下 利樹	加藤 剛義 (土屋)
	丸山 康博	野中 良一	重松 伸子
	山崎 和美	倉持信太郎	

生物	岡 修三	坂上 譲	山下三恵子
	長岡 宏	森本 昭子	

理学同窓会会計報告

昭和56年度

収	入	支	出
前年度繰越	2,427,357	通 信 費	124,280
会 費(174名分)	870,000	文 房 具 等	20,200
名 簿(コピー)	615	印 刷 費	152,000
利 子	85,854	コ ピ ー 代	810
		雑費(謝金,香典等)	49,880
収 入 計	3,383,826	支 出 計	347,170

昭和57年度

収	入	支	出
前年度繰越	3,036,656	通 信 費	178,240
会 費(172名分)	860,000	文 房 具 等	10,650
利 子	71,303	印 刷 費	2,500
		雑費(謝金,香典 30周年記念事業 委員会費等)	41,050
収 入 計	3,967,959	支 出 計	232,440

昭和58年度

収	入	支	出
前年度繰越	3,735,519	通信費・電話代等	694,420
会 費(170名分)	850,000	文 房 具 等	8,130
名 簿	1,540,000	印 刷 費(名簿等)	1,120,500
利 子	174,282	コ ピ ー 代	4,803
		雑費(謝金,30周年 記念事業補助等)	77,822
収 入 計	6,299,801	支 出 計	1,905,675

昭和59年度

収	入	支	出
前年度繰越	4,394,126	通 信 費	200
会 費(170名分)	850,000	文 房 具	180
名 簿	70,000	コ ピ ー 代	1,650
利 子	143,630	雑 費	2,000
収 入 計	5,457,756	支 出 計	4,030

次年度繰越 5,453,726

編集後記

待望の会館がやっと出来上がりました。会館御案内と一緒に遅れていました同窓会設立30周年記念祭の報告や、各教室便り、東京支部の動きなどを集めてみました。表紙は丸木由美子さん（理・生物・S60卒）のお世話になりました。

昭和58年7月に発行しました愛媛大学文理学部理学科ならびに理学部同窓会会員名簿、まだ残部があります。送料込み2,000円を郵便振替（徳島2—19981 愛媛大学理学同窓会）で御送金下さればお送りします。次の名簿発行は3年後位の予定です。（越智）

昭和60年7月10日 印刷

昭和60年7月12日 発行

編集兼 愛媛大学理学同窓会
発行者
〒790 松山市文京町2-5
TEL (0899) 24-7111
内3582・3516

印刷所 (株) 関洋紙店印刷所
〒790 松山市湊町7丁目7-1
TEL (0899) 45-0111